

翼PTA通信

第42号
令和5年3月3日
発行
翼キャンパス
PTA

〴〵卒業生おめでどうございませう。

PTA会長 後藤 かな子

気候の変動が激しい近年ですが、季節は巡ってきませう。冬の寒さが一段落し、春の気配が感じられるこの季節、卒業生の皆さま、御卒業おめでどうございませう。そして保護者の皆さまにおかれましては、お子さまの御卒業おめでどうございませう。お子さまが立派に成長され、晴れの日を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さま、高校生活はいかがでしたでしょうか。入学当初からの新しい環境への期待と不安に加え、時勢の不安定さも重なり、本当に大変なことが多い高校生活だったと思います。それでも辛いことや悲しいこと、大変だったこと以上に、嬉しいこと、楽しいことがあったでしょう。振り返った時に、よかつたと思える高校生活であったなら嬉しく思います。

さて四月からは、再び新しい生活が始まります。進む道は一人ひとり異なります。自分の意志で選択した進路ですから、その責任は自分自身で負わなければなりません。学校から離れた社会では、権利を主張する自由が与えられる一方で、その対価としての義務と結果を負う責任が絶えず付きまといませう。すでに成人とされる年齢です。向けられる目は当然のように厳しいですが、毅然と権利を行使し、義務を全うし、責任から逃がれることのない社会人となつてくださう。そして、そこに思いやりなどを加えることができれば、とても素敵な大人、社会人となるのではないでしようか。

みなさんが社会人になると、今まで以上に色々な考えを持った人たちに会おうでしよう。守られた世界から、ぐつと世界が広がり、これまでよりも心を動かされることが多くなると思います。一方で、嫌だと感じることも理不尽だと感じることもあるでしよう。反面、今までにない達成感や嬉しさもあるはずです。もし、違う価値観、困難にぶつかつて、ひとまず諦めずに広い視野をもつて見てみてください。時間はまだまだたくさんあります。若いので、若さを武器にしてください。これからのためにも、時には休息しながら経験を積み、見る目を養つて、素敵な大人、人生への財産としていつててください。

コロナ禍に加え、物価高や社会情勢の不安定さなど先行きの見通しがつきづらいい世相ですが、これからは卒業生の皆さまが世の中をけん引していく世代です。みなさんの高校生活は、コロナ禍の中で入学から卒業までを過ごすこととなり、想定外がたくさんあったことと思います。それでも状況に適応し、高校過程を修了できたこと、卒業の日を迎えることができたことを自信としてこれから先、誇りを持って歩んでほしいと思います。世の中にはどう頑張つても合わない人もいれば、味方も同志もいます。高校生活で寄り添つてくれた御家族や先生方のように一緒に歩んでくれる人もいます。それも忘れないでください。

卒業生の皆さまのこれからが、御自身にとつて、これで良かつたのだと思える人生であること、そして、御健勝であることをお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

卒業を迎えて

校長 大島 隆二



卒業生の皆さん、おめでどう。そして、保護者の皆様、お子様の御卒業おめでどうございませう。人生で最も多感で、著しい成長期のお子様、こうして慶びの日を迎えられましたことは、感慨もひとしおのことと推察いたします。また、これまで、本校の教育活動に多くの御支援と御協力を賜り、職員を代表して厚くお礼申し上げます。さて、卒業生の皆さん。高校生活の中で得たものは何でしようか。知識や技能だけでなく、大切な友達や学校行事などで感じた達成感もあるでしよう。まずは、無事に卒業を迎えられた自分自身を褒めてください。卒業は、入学したときに立てた目標を達成した瞬間です。このことを誇りに思ってください。

感染症の影響で生活が一転してしまいい、大切な高校生活に大きな影を落としました。しかし、皆さんは、ただそこに立ち止まるのではなく、その時々のできることを考え、学校行事や普段の生活の中で努力してきたことは、大変素晴らしい、頼もしく感じられました。この経験は、きつと将来役立つものと信じています。これからの人生をより豊かにしていくためにも、自ら考え、判断し、行動できる人になつてくださう。

「あいちの教育ビジョン2025」において示されるように、あいちの進める教育は「自ら高めること」と「社会の担い手となること」を基本としています。つまり、これから社会に出て行く皆さんにとって大切なことは、高いモチベーションをもつて学び続けていくことにあります。今後、如何なる時代が来ようとも、学び続けている限り、道は開かれます。困つたときにこそ、知識や技能を習得してみましよう。苦勞して身に付けたものが、必ず役に立つときが来ませう。

もしそれでも、道に迷つて立ち止まつてしまったときには、心よりどころとして翼キャンパスのことを思い出してください。そして、相談に来てください。そのとき学校は、皆さんを温かく迎え入れる準備をして待っていますので、気兼ねなく頼ってください。

最後に、卒業生の皆さん、明るく、正しく、たくましい立派な社会人として、新たな人生を力強く、そして着実に歩んでいつてってください。皆さんの前途に幸多かれと心より祈念しています。



卒業生に贈る言葉

おめでとう・ありがとう

三年一組担任 井上 知絵

卒業おめでとう。三年間を共に過ごしてきたみなさんに、今私から何を伝えたいのかすごく悩みました。これまで、何度も繰り返し言ってきた小言から、何気ない雑談、真剣な悩み相談、思い返すとたたくさんの言葉を交わしてきましたね。私の言葉に嫌な思いをした人もいるかもしれませんが。また、勇気をもたらした人、励まされた人もいます。言葉というのは、人とコミュニケーションをとるうえで大きな助けになるし、その反対もあります。みなさんは、これから社会に出ます。様々な人と関わりながら生きていかなければなりません。そんな時、言葉はとても大切です。みなさんを支えてくれるものにならなければいけません。難しいですか？では、初級編の言葉を四つ伝えますね。これらを心にとめてくれると嬉しいです。

「はい」 返事はコミュニケーションの基本です。「おはようございます／こんにちは」挨拶も返事に並ぶ基本ですよ。

「ありがとうございます」感謝の言葉に嫌な気持ちになる人はいません。

「すみません」不注意があったとき、うまくいかなかったときは素直に言いましょ。

これらは本当に一部ですが、どれもとても大切な言葉だと思っています。これがクリアできたら、次は中級編です。どんな言葉か気になる人は私に聞いてください。さらに上級編も用意しておきます。そして最後に、言葉を紡ぐときには、その状況にあった表情も大切です。マスク生活が長いと、表情筋が固まってしまいます。鏡を見て、ほぐしてみてください。

それでは、みなさんのこれからの人生が幸せなものであることを願っています。

三年間、担任ができて幸せでした。ありがとう。

3年間、ありがとう。

三年二組担任 河合 駿作

卒業おめでとうございます。いざ、卒業式を迎えると、時間が立つのは早いなとつくづく思います。君たちはずっとコロナと共に日常生活を送ってきました。いたるところで、マスクの着用や手指消毒など感染対策を守り、制限がある中で生活してきました。1年生の時は、遠足が実施されなかったり、体育祭が中止になったりと、学校行事が満足にできませんでした。とくに、食事の時間は黙食で、談笑しながら友人と食事をする何気ないひと時が過ごせなかったことが、振り返るととても寂しく思います。

2年生は、高校に入学して初めて、「明治村」へ遠足に行きました。現地では、班別行動でそれぞれがどこを見学するであるとか、昼食は何を食べるであるとか、計画を立てて、園内を散策することができました。楽しそうに過ごしていた姿を見てうれしく思ったことと、集団で行動する姿に安心した記憶があります。

3年生は、「神戸・大阪」への修学旅行です。やはり、班別行動で散策をしました。遠足と違って、愛知県を離れての行事なので、君たちも不安を抱いていたのではないのでしょうか。しかし、初日の神戸市内の散策では、少しの班は時間を間違えるなど失敗はありましたが、大きな問題なく取り組むことができました。その夜の、ディナークルーズでは船上から神戸の夜景を眺めることができました。私も君たちと貴重な体験ができたのが懐かしく思い出されます。2日目は、USJで一日満喫をしました。2年生で班別行動を経験した成果もあり、初日と2日目はとても順調に行動することができました。3日目は、保津川を船で下りました。この経験も貴重な経験だったのではないのでしょうか。この、修学旅行3日間で、失敗もありましたが、その失敗を活かして成長をしたと感じています。

ここでは、私が3年間で印象に残る大きな出来事を書きました。これらの経験は君たちを大きく成長させてくれたことに間違いありません。そして、何気ない些細な日常での仲間との関りも成長するために欠かすことのできない時間だったと思います。何より、この翼キャンパスで過ごした日々が君たちにとってかけがえのない成長させてくれた時間だったと思ってもいいと思います。これが、一番伝えたいことです。これからの君たちの人生が豊かなものであることを切に願って贈る言葉とします。

卒業する君たちへ

三年三組担任 鈴木 要

いよいよ高校最後を締めくくる卒業を迎えます。卒業式というものは、これまでの成長を多くの人に見てもらい、これから更なる成長をしていく決意を行う場所だと私は思っています。

私が翼キャンパスに赴任してきて、もうすぐ一年がたとうとしています。どんな生徒たちと過ごすのかとても緊張していたことを思い出します。

始業式の日に私用でおらず、担任不在のクラス写真を撮りましたね。5月に行った修学旅行では、君たちも私もお互いどんな人だろうと探りながら2泊3日を過ごしましたね。でも、その修学旅行でたくさん接することができて、とても楽しく過ごせました。学校祭の文化祭では、各クラスが一生懸命準備していて、体育祭では一人一人が出場する種目を一生懸命行い、それを応援する姿を見てうれしく思いました。球技大会でも体育祭と同様に、一生懸命行う姿が印象に残っています。君たちが高校に入学するとき、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、思い描いていた高校生活を過ごすことができなかった中で、学校行事にしっかりと参加し、取り組んだことは、とても素晴らしいことだと思います。

君たちはこれまで、楽しいこと、うれしいこと、大変なこと、つらかったこと色んな経験をしてきたことと思います。その一つ一つの経験がこれまでの君たちを作ってくれています。これから様々な経験を重ね、成長していきましょう。そして経験したことを活かし、人生を楽しく過ごしていきましょう。応援しています。

卒業生のみなさんへ

四年一組担任 越江 麻衣

私は、卒業を迎える人たちに必ず言うことがあります。それは「人の可能性は無限大ではない」というものです。この言葉を聞くと、「めでたい門出になにを……」と思うかもしれませんが、これはネガティブな言葉ではありません。可能性は無限という前提で生きていくと、「他の人ができているのだから、自分も同じことができるはずだ」、「あのときこうしていればもっと別の道があったはずだ」、「みんなできることが自分にできない」、「結局やっても無理なのだからやめよう」など自分の力量を見誤ったり、自己嫌悪に陥ったりしがちです。やろうと思えば何でもできるはずだという考えは、今の自分を無視した行動をしてしまいます。限りある今の自分が最大限できること、ちょっと頑張ったらできそうなことをこなし、積み重ね、どんどん成長していきましょう。

一年という短い間でしたが、今となっては皆さんと過ごした何気ない一日がほんとうにかけがえのない思い出となっています。初めての土地、初めての高校教員生活で皆さんと学校生活を送ることができたことを喜ばしく思います。個性豊かなみなさんが、同じ学校で、それぞれ経験したことには価値があります。ここで得た縁を大切に、自分の道を歩んでください。卒業おめでとう。



『むかし』 昔 そのもうちよつと前のお話』
三年一組副担任 加藤 充宏

今日は、会津藩の『仕(じゅう)の掟(おきて)』を紹介
します。今のちよつと福島県あたりが、会津(あいず)
藩と呼ばれていたところのお話です。会津藩の子供たちに
は、各地域ごとに十人一組で組(遊び仲間)を作りまし
た。その組において、年長者への礼儀やさまざまな知識
を身につけさせようという狙いでこの掟がつくられた
と伝えられています。

『仕の掟』

- 一、年長者の言ふことに背いてはなりません
- 一、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 一、虚言(うそ)を言ふことはなりません
- 一、卑怯な振る舞いをしてはなりません
- 一、弱いものをいじめてはなりません
- 一、戸外で物を食べてはなりません
- 一、戸外で婦人と言葉を交へてはなりません
- 一、ならぬことはならぬものです

もちろん、現在の令和においては、この『仕の掟』全
てが通用するものではありません。笑ってしまうものあ
るでしょう。社会の習慣や人の考えが変わったのですか
ら。しかし、思うのです。先人たちが、その時、何を伝
えようとしていたのかを。

教員・家庭・社会が、共通の理解のもと、子供たちに
規範意識を教えるために、理屈ではなく、『ならぬもの
はならぬ』と、物事の善悪の判断を繰り返し教えていく
ことはとても大切なことなのです。

参考文献「国家の品格」

閑話休題(ちよつと前振り)が長すぎた!本題に戻ります)

卒業おめでとうございます。
しっかりと前を見つめ、胸を張っ
て、堂々と、人生のど真ん中を歩
んで行ってください。たった一度
のかけがえない人生ですから。



また、どこかで出会える日まで

三年二組副担任 原谷 孝弘

卒業生のみなさん、御卒業おめでとうございます。
みなさんの未来が明るく、たくさんの笑顔につつまれ
たものとなるように願っています。

私がみなさんと過ごした時間は一年だけでしたが、
毎日、みなさんの素晴らしさを感じていました。授業
を真剣に受ける姿勢。様々なことに取り組もうとする
姿勢。一年だけでこれだけ変化が感じられ、素晴らし
さを感じられるのならば、三年間一緒にいられたら、
もっと感動をもらえただろうにと、少し寂しく感じま
す。こんな風に思わせてくれるように、あなたたちは
素晴らしい存在です。どうか、翼キャンパスで学んだ
ことを誇りに思ってください。そして、これからも胸
を張って挑戦を続けてください。君たちなら必ず頑張
れます。私は君たちを信じています。そして、いつか
また、成長した君たちと会えるのを楽しみにしていま
す。また、どこかで出会える日まで、とりあえず「さ
ようなら」。

ワクワクしながら、次のステージへ!

三年三組・四年一組副担任 高丸 満夫

「社会人になる」のはハードルが高い、と思う人は
多いと思います。誰でも、未知の世界に飛び込むのは、
勇気が要るし、あれこれ余計な心配をしてしまう。

でもみなさんは、これまでも、例えば上の学校に
上がる度に、そういう経験をしてきましたよね。振り
返れば、あの時の心配は何だったんだらう、と思いま
せんか?

これからのみなさんが、これまでと異なるのは、自
分の意志で自分を成長させることができるというこ
とです。社会で活躍できるように、前向きな心をもつ
それは、ちよつとした気持ちの切り替えでできること
です。

さあ、ワクワクしながら、次のステージへ!

人の心に寄り添える大人を目指して

三年一組 卒業生代表 岩田りん

私には、三年間の高校生活の中で、たくさんの
出合いがありました。本音を言うことが苦手で、
いつも本音が話せずに苦しんでいた私に、互いに
心を許し合い、信頼を寄せることができる友人が
できました。卒業を迎え、友人たちに感謝の気持
ちでいっぱいです。かけがえない友人たちと出
会えた日から、重ねた今日までの日々を私は鮮明
に記憶に残しています。何度も迷惑をかけました
が、この先もずっと友達でいたいと思っています。
週に五日も会っていた友達と卒業という形で離れ
てしまうのは寂しいけれど、その思い出を大切に
心にしまっておきたいと思っています。そして、
困ったとき、つらい時には、時々その思い出を思
い出し、心の支えとして、それぞれの次のステー
ジで頑張っていければ、と思っています。

私がさまざまな悩みを抱えた時、翼キャンパス
の先生は、たくさん相談にのってくださいました。
しつこいくらい心配性の私に、先生方は私が納得
いくまで、「大丈夫だよ。」とくり返し言ってくだ
さいました。今まで誰にも言えずにいた悩みも、
そんな先生方には、初めて話すことができました。
私たちが充実した学校生活を送ることができたの
は、間違いなく先生方の支えがあったからです。
私は進学しますが、先生方からいただいたこの気
持ちを大切に頑張りたいと思っています。そ
して、これから出会う人達に、先生方からいただ
いた「あたたかさ」を、私から伝えてあげたいと思
います。私も、先生方のように人の心に寄りそえ
る大人になれるように努力を続けていきます。今
まで本当にありがとうございました。

相談室から

教育相談員 祖父江元宏

言葉には特別な力が秘められていると言われま
す。実際に今までの自身の経験を通してそう実感し
ている人も多いと思いますが、私もその一人です。

発した言葉は必ず自分に返ってきます。たとえば、
「もうダメだ」「ああ、疲れた」などと言うと気分がど
んと落ち込みます。逆に、「大丈夫」「なんかかなる」
とポジティブな言葉を言うと、困難に直面しても不
思議と乗り越えられる気持ちが湧いてきます。

それでもどんなに努力してがんばってもうまくいかな
いときもあります。落ち込んだり悩んだり立ち止まっ
たりすることもあるでしょう。そんなときには、気持ち
を切り替える言葉が有効です。たとえば「まあいいか」
の一言。実際に口に出して言うことより効果的です。言
葉が耳から自分の中に伝わり、心のスイッチが切り替
わり前向きな気持ちを推してくれます。

また、出来事や物事を新しい見方、視点で捉え直す
「リフレーミング」という方法があります。失敗したこ
とを「自分はダメだ」と考えるのではなく、見方、視点
を変えて「次に生かすために良い経験をした」と考え
るのです。そうすると失敗が学びの場となり、自分自
身の成長につながるプラスの意味に替えることができ
ます。

良い言葉に出会い良い言葉を使うこと+「リフレー
ミング」で自身の成長と豊かな人生を育んでいってほ
しいと思います。



生活体験発表会・生徒作品発表会 報告

定時制・通信制高校では、自分の境遇を見つめ、自己の生き方を模索する目的で、生徒が自身の生活体験を発表しています。本校もこの趣旨にのっとり、卒業年度を迎える三年生が取り組んでいます。第六十二回生徒生活体験発表会は、令和四年十月一日(土)にウイルあいちと愛知県図書館で開催されました。それぞれ、工夫された発表で素晴らしい発表会となりました。本校からも三年生の丸山菜奈さんが学校代表として参加しました。緊張もありましたが、しっかりとした口調の気持ちが伝わる発表でした。ここにその全文を記載し、紹介します。

いつも笑顔でいるために

三年三組 丸山 菜奈

私は、中学校二年生の終わりまで、ほとんど学校に行きませんでした。学校に行かなくなったきっかけは、自分自身がクラスになじめないと感じたからです。そのころから、何をやっても自分自身は上手くいかないと思うようにもなりました。学校に行けないという悩みは、私に重くのしかかることになり、うつ病と診断されるような状況になってしまいました。三年生になった時によく学校に足を運べるようにはなりましたが、教室に入ることではできず、別室登校をしていました。そんな私に、今通っている一宮起工科高等学校昼間定時制を薦めてくださったのが、三年生の時の担任の先生でした。何事も自信が無かった私に担任の先生は、「丸山さんなら絶対に大丈夫。高校の先生たちもやさしく接してくれるよ。」と言ってくれました。不安がすべて無くなったわけではありませんでした、その言葉に、体験入学に行く勇氣をもらいました。実際に体験入学に行き、学校紹介映像を見せてもらった時、「ここなら私でもなじめる。」と感じました。説明でも、私と同じように不登校で悩んでいた生徒が多数通っていると聞いて、一宮起工科高等学校昼間定時制に進学することを決意しました。



なんとか合格し入学してからは、私には心優しい友人ができ、楽しい日々がおくれるようになりました。入学前の「人見知りや友人ができるだろうか」「教室に入れるだろうか」という悩みはいつの間にか消えてなくなっていました。目の前がどんどん明るくなっていくような気持ちになり、自分の未来が広がっていくような気がしました。この高校を選んで良かったと思います。

しかしそんな私に、想像もしていなかった問題が突きつけられたのです。それは、父の失職でした。その日から、家の中の雰囲気はどんよりとし、とても重くなりました。その雰囲気の中で、私自身も今までの気持と真逆になり、毎日何をしても楽しくなくなりました。苦痛と感じる日々が積み重なっていききました。しかし、状況は簡単に変わることは無く、私は自分がどうしたらいいのかわからなくなっていました。どうするか悩みましたが、高校の先生に相談してみました。高校の先生たちは、私の話を傾けてくださり、「そんな状況の中で、毎日学校で笑顔で明るく過ごしてすごいよ。ただ、自分を偽らず、素の自分を出せばいいんだよ。いつか心の底から笑える日が来るよ。あなたの事が好きよ、あなたの事を大事に思っている人がここにはたくさんいるからね。」と言ってくださいました。私はこの言葉から、自分自身の状況を前向きに考えることができるようになるきっかけをもらいま

た。無理をして笑うより、自然体でいよう。自分自身を飾らないで、友人に相談してみよう。そう思うようになりました。そして、そう思うことで、自然といつも笑顔でいられるようになりました。

私は今年三年生です。卒業式にむけてのカウントダウンが始まっています。三年前、別室登校しかできず、どの高校にいけばいいのか迷っていた自分と比べて、成長したことがたくさんあると思います。高校生活では、アルバイトにもチャレンジしました。アルバイト先にはコンビニエンスストアを選びました。接客があるアルバイトを選んだのは、中学生の頃に、人から、「挙動不審だね。」と言われたので、それを克服したいと思ったからです。最初はお客さんが来ても声も出せませんでした。しかし、あきらめず努力を続けました。そして少しずつお客さんに対応できるようになりました。あきらめず努力したおかげで、今では、日常のコミュニケーション能力まで向上したように思います。実際、一年半ぶりに会った人に、「びっくりするほど人見知りが出たね。違う人かと思ったくらいだよ。」と言ってもらえました。「私も少しは変わったんだな。」と安心する気持ちになりました。

ただ、三年生の日々の中で、成長を実感している今も、家庭の状況に大きな変化は起きていません。このままではダメだと思い、私は、自分自身の環境を変える決断をしました。今住んでいる家を出て、祖母と二人で暮らすという決断です。「卒業までの残りの日々は、私自身のために頑張りたい。」と思う気持ちからでした。今までの私は、できなかっただろう決断でした。今までの私は「今、現在」しか考えられていませんでした。そこにしか目をむけられていませんでした。しかし、高校生活を経験してきた私は、「将来、未来」のことを優先して考えられるようになりました。これは、自分自身の性格を理解できるようになったからだだと思います。今の私のテーマは、「少しずつ、ゆっくり」です。これは、最後に自分自身を信じてあげられるのは、自分自身だと気づいたからです。自分を信じて、ゆっくり歩む。私が学んだ大切なことです。卒業まで、祖母との生活を続けようと思っています。焦ることなく、ゆっくりと自分自身のために、残りの高校生活の時間を費やしたいと思っています。

私は卒業後、専門学校への進学を希望しています。専門学校で美容を学び、社会に出ていきたいと考えているからです。多分、専門学校へ入学してからも、これから社会人になっても、いろいろな壁にぶち当たるとは思います。しかし、高校生活で学んだことを忘れず、いつも笑顔でいるために、自分自身のことを信じ続けてあげたいと思います。

最後になりましたが、私は本当にやさしい人達に支えられてきました。私とかかわってくださったみなさんのおかげで、ネガティブだった私は、ほんの少しポジティブに生きられるようになりました。私はこのことをずっと忘れないでいようと思います。みんな、私を支えてくれてありがとう。これからも私は、どんな困難も『笑顔で乗り越えてやる』と思っています。



定時制・通信制高校の文化的分野での取り組みの様子を県民のみなさんに知っていただくことを目的として、生活体験発表会と同時期に愛知県図書館で生徒作品発表会を開催しています。今年度も絵画や彫刻、現代美術、イラストなど様々な作品が展示されました。本校からも三年生の渡邊日向さんが学校代表として切り絵を出展しました。立体感がある精密な切り絵を見て、多くの見学者が感動していました。



渡邊日向さん作品 切り絵
「俺、火影になる。」